兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

小清水 漸 アーティスト・トーク
「もの派の始まりと、それからの私の彫刻」

講 師 **小清水 漸（すすむ） 氏** 彫刻家／京都市立芸術大学名誉教授

2026年 **12月13日（日）** **14:00–15:00** 受付13:30–

兵庫県立美術館 レクチャールーム
神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 〒651-0073（最寄駅： 阪神岩屋駅 /JR 灘駅 / 阪急王子公園駅）
先着順（定員80 名） **聴講無料**（第2日曜日につきコレクション展無料）



1970年前後に現れた「もの派」

と呼ばれることとなる一群の作家たちの運動は、戦後日本に現れた美術動向の中でも特に重要なもののひとつとして国際的な注目を集めています。40年前にフランス、パリのポンピドゥー・センターで開催された「前衛芸術の日本」展においても、展覧会の掉尾を飾るものとして「もの派」が紹介されました。

2026年コレクション展 II はこの「前衛芸術の日本」展を振り返り、当館のコレクションの歴史的意義を改めて検証する試みです。本展の関連事業として、「もの派」の中心的なアーティストである小清水漸氏をお招きし、「もの派」誕生のきっかけとも考えられている1968 年の須磨離宮公園での関根伸夫《位相―大地》の発表時の状況や、小清水氏による木、石、紙、土、鉄などの素材と向き合う作品や代表的なモチーフである「作業台」について、そして現代における「もの派」の意義などのお話をうかがいます。

小清水 漸 氏 （こしみず・すすむ）プロフィール

1944 年愛媛県宇和島生まれ。1966 年から 1971 年まで多摩美術大学彫刻科在籍。現在は京都と大阪を拠点に活動する。1960 年代後半から木、石、紙、土、鉄などを用い、素材間のかかわりを重視した作品を制作してきた。1970 年前後の美術運動「もの派」の中心的アーティストであり、ベネチアやサンパウロのビエンナーレ展をはじめ国内外の展覧会で活躍を続ける。主な個展に「小清水漸展 彫刻・現代・風土」（岐阜県美術館、愛媛県立美術館、1992年）、小清水漸教授退任記念展「重力 / 質量 / 作業」（京都市立芸術大学芸大ギャラリー・大学会館ホール、2010 年）など。



小清水漸《作業台ー曲水ー》
1983年　桂、水
山村コレクション　昭和61年度山村節子氏寄贈